

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870300906
法人名	有限会社 エンジェルハウス
事業所名	グループホーム紙ふうせん
所在地	愛媛県宇和島市三間町成家845番地
自己評価作成日	平成27年9月25日～平成27年10月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年12月8日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりが安心して暮らせるように、サービスの見直しや計画も、スタッフ、家族と情報提供を行い、要望、希望など聞き、ミーティングやスタッフ会などで話し合いながら介護を行い、又、研修や勉強会などにも取り組み、事故防止や質の向上を目指し、よりよいサービスが出来るよう日々努力している。介護の重度化の見られる方も増加しており、みとりの受け入れも毎年増加の傾向にある。今後も取り組んでいきたい。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

7月に事業所でそうめん流しを行った際には、近くの保育園の園児を招待して一緒に楽しんだ。保育園、小学校と合同で行う防災訓練は、主催が当番制になっており、事業所は、昨年当番であった。ご家族はおやつ持参で来訪し、玄関に設置されているテーブルで利用者の方とおしゃべりしながら過ごすことが多く、職員はお茶等を用意したり、ゆっくり過ごせるようドアを開ける等して気配りをしている。ご家族に利用者と一緒に楽しい時間を過ごしてもらえるよう、そうめん流しやクリスマス会、又、バイキング形式の食事会時には、ご家族に案内している。だいたい4～5家族の参加があるようだ。  
6月には、長年事業所で暮らした利用者の看取りを支援した。食べられる時に、食べられるものを食べてもらえるよう支援したり、気分が良さそうな時には起きて過ごし、体調をみて入浴できるよう支援した。職員は、痛いところはないか聞きながら安楽に過ごせるよう配慮して支援した。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム紙ふうせん

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)  
氏名 松岡 美春

評価完了日 平成27年 11月 5日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 心がけてはいるが、出来ている時と出来ていない時がある。利用者に安らぎを与える工夫が足りていない。スタッフ間でも安らぎがあると良い。今後も気を付けて実践していきたい。 (外部評価) 事業所開設時に作成した「ふーわり思いやり ふーわり笑顔 ふーわりやすらぎ まーるい心」という理念を玄関に掲示している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の人へのあいさつや、小学校、中学校、保育園とのイベント交流などの機会がある。 (外部評価) 7月に事業所でそうめん流しを行った際には、近くの保育園の園児を招待して一緒に楽しんだ。保育園、小学校と合同で行う防災訓練は、主催が当番制になっており、事業所は、昨年当番であった。これまで継続して行ってきた納涼祭は、利用者の重度化のこともあって休止している。	職員は、これまで事業所で地域交流の活動を活発に行ってきたことで地域の方達の認知症への偏見が少なくなり、事業所への理解が広がったと成果を感じている。今後さらに、認知症になっても住み慣れた環境の中で、最期まで暮らすことができる事業所サービスの特長を地域に広く知ってもらい、取り組みをすすめ、地域の協力者を増やしてほしい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 分からない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 上司が出席し、地域の方々や家族の方の生の意見を聞くことで施設の運営に活かしていけると思う。</p> <p>(外部評価) 会議を2ヶ月に一回開催して事業所や利用者の状況等を報告している。事業所から職員不足や職員を育てることが難しい現状を報告した際には、他事業所の方からアドバイスがあったり、ご家族から「職員は自分でしっかり勉強してほしい」等の意見があった。又、保育園園長からは、園での職員研修の工夫を教えてもらった。毎年事業所の前に広がる田には、地域の方達がコスモス畑をつくっているが、今年はコスモスが少なかったこともあり、事業所側から種まき等のお手伝いができることを伝えた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 防災訓練に参加することで、連携を図っている。</p> <p>(外部評価) 介護相談員を受け入れており、訪問時には利用者とお話をしている。運営推進会議には市の担当者が出席している。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者の状態に応じ、家族の許可をもらい車イスのベルトやつなぎを使用している。(衛生面や安全面などに考慮)</p> <p>(外部評価) 現在、利用者の状態により、車イスの安全ベルトやつなぎ服を使用して対処している事例が複数ある。この一年間には、職員が身体拘束や虐待についての知識等を学ぶ機会を持っていない。職員同士ケアについて話し合うようなこともあるが、利用者の現状について「仕方ない」と思っている職員もいる。</p>	<p>法人は、全職員が身体拘束や虐待防止について正しく学ぶ機会を作り、利用者の言葉や行動の背景、原因をひもときながら身体拘束のない本人本位の支援を実践していけるよう、取り組んでいくことが求められる。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) している。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 分らない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の時に重要事項の説明はしている。内容に関しては確認してもらい、疑問点などは聞いてもらえるよう、一言伝えている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 上司が対応している。 反映すべきことは、即対応するようにしている。	
			(外部評価) ご家族はおやつ持参で来訪し、玄関に設置されているテーブルで利用者の方とおしゃべりしながら過ごすことが多く、職員はお茶等を用意したり、ゆっくり過ごせるようドアを閉める等して気配りをしている。ご家族に利用者と一緒に楽しい時間を過ごしてもらえるよう、そうめん流しやクリスマス会、又、バイキング形式の食事会時には、ご家族に案内している。だいたい4~5家族の参加があるようだ。	ご家族の立場は「お世話になっているので言いにくい」という心情を持っていることが多く、ご家族が意見や要望を言いやすいような事業所側からの働きかけや機会作りの工夫が求められる。又、利用者の暮らしをご家族と一緒に支えられるよう、ご家族が事業所の取り組み等にかかわるような機会も工夫してはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 反映される時もあるが、反映されないこともある。	職員のチームを育てていくためにも、月1回の職員会議開催に取り組んではどうか。みなで意見交換して意識統一したり、ケアの改善について話し合う場にしてほしい。又、年間計画を立て職員が勉強する機会を作り、事業所のケアサービスの質向上を目指してほしい。
			(外部評価) この一年間は職員会議等、すべての職員が集まって話し合うような機会が持てておらず、その日勤務する職員で話し合っただけで決まったりしている。決めたことは、申し送りやノートを使って情報伝達している。この一年間は職員研修の受講の機会を持っていない。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 整っていると思う。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員で助け合ったり、教え合ったりしている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 交流はほとんどないと思う。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 声かけや会話でコミュニケーションをとり、信頼関係を築いていけるよう心がけている。安心して生活できるよう、常に声かけをする。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価) 家族からの要望があったら、上司に報告・相談している。 家族との会話を大切にする。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価) まず入所が必要かどうか、家族が何を要望しているか、情報収集時に見極める。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価) 出来ていると思う。 利用者に出来ることは手伝ってもらい、スタッフが間に入ることでコミュニケーションを取ることも出来ている。</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価) 面会時には家族で過ごしてもらったり、スタッフと家族とのコミュニケーション、情報交換をし協力してもらえることはお願いし、利用者に関わってもらえるようにはしている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価) 面会に来てもらったらゆっくりと過ごしてもらっているが、家族が外出に連れて行ってもらう以外は難しい。</p> <p>(外部評価) 昼食後、洗面所を先に使っていた利用者が、車いすを使用する方の歯ブラシを戸棚の中から探してあげるような場面があり「ありがとう」とお礼を言っていた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 関わりの持てる利用者については努めているが、コミュニケーションが取れない人は孤立してしまう事がある。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所してしまうと途切れる。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 可能な範囲で努めているが、意向を把握していても希望に添えることと添えないことがある。	
			(外部評価) ご自分の意思で長年日記を書いている方が複数いる。調査訪問時には、昼食後、居室で日記を書いている方がいた。要介護認定更新時期に合わせて日常生活動作等の情報を更新している。「おやつを買いに行きたい」と希望する利用者がいた場合は、職員がおつかいに行くようなこともある。	さらに、利用者の思いや意向を知るためのアセスメントに工夫してほしい。利用者主体の支援を実践できるよう、得た情報を介護計画につなげていく仕組みを作っていてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 詳しくは分からないが、可能な範囲で把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) できていると思う。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ケアマネに意見を伝え、作成はケアマネがしている。</p> <p>(外部評価) ご家族には事前に要望を聞き、職員からの意見を踏まえてケアマネジャーが介護計画を作成している。計画の支援内容に番号を振り、介護記録に記録する仕組みを作っている。又、毎月、支援できたかどうかモニタリングを行い、3ヶ月ごとに評価している。</p>	<p>介護計画に沿って支援することで利用者の生活が改善されたり、暮らしが豊かになるよう計画内容に工夫してほしい。利用者の意欲向上に向けた支援や地域やご家族の協力を得て、生活を地域に広げていくような支援にも工夫してはどうだろうか。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) している。 記録や申し送りは分かりやすいようにするように心がけている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 介護保険でのサービスならば取り組めていないが、可能な限り取り組もうとは思いますが、本人、家族への公平なサービスを行うためには慎重に対応しないとけないと思う。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) それぞれのレベルもあり、できていないと思う。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 入所してかかりつけ医を変えられない人もいるし、そのままのかかりつけ医にしている人もいて、本人、家族は納得していると思う。</p> <p>(外部評価) 強い口調や行動がみられる利用者について、医師と相談して薬等を用いながら様子を見ているケースがある。事業所には看護職員は配置されていないが、医師に連絡したり、必要時には隣接デイサービスの看護職員が相談に乗ってくれている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 看護職員がいないので、病院に報告し受診している。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 努めているが、家族を通じて行うことが多い。 病院 家族 施設</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) できていると思う。</p> <p>(外部評価) 6月には、長年事業所で暮らした利用者の看取りを支援した。食べられる時に、食べられるものを食べてもらえるよう支援したり、気分が良さそうな時には起きて過ごし、体調をみて入浴できるよう支援した。職員は、痛いところはないか聞きながら安楽に過ごせるよう配慮して支援した。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 訓練は出来ていない。 出来る職員と出来ない職員があり、多少差はあると思う。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域との防災訓練や施設の避難訓練などで、日中は身につけられていると思うが、夜間は出来ていない。	
			(外部評価) 近隣の保育園や小学校等と合同の防災訓練を実施し、防災設備会社からは緊急通報装置等の説明を受けているが、この一年間では事業所独自で避難訓練を行っていない。	災害はいつ起こるか分からないことでもあり、又、利用者の状態も変化することを踏まえて、事業所独自でも避難訓練の実施に取り組んでほしい。いろいろな場面を想定して行い、全職員が体験できるよう取り組んでほしい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) している。	
			(外部評価) 「笑顔を作る」等、職員個々に気を付けていることもあるが、事業所全体としては、利用者への言葉かけや対応について気になることが多くあるようで、一番の課題と感じている。職員が業務を優先してしまうような場面や、言葉を掛けずに利用者にかかわるような場面等も見受けられる。	職員自身の気付きはケア改善への起点でもあり、職員自らが点検できるような仕組みを作ってほしい。そのような取り組みをご家族や運営推進会議メンバーにも報告して、これからの取り組みのモニター役になってもらってはどうか。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来ることもあり、やりたいと思うが時間やその時の 状況により、職員のペースでしてしまうこともある。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) できている。 している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) している。 介助が必要な利用者も多く、出来ない時もある。	
			(外部評価) 別の場所にある法人厨房で作ったおかずが届くよう になっている。事業所ではご飯やお汁、おやつ等を作っ ている。食器は陶器の小さい器等を使用して、職員が 彩りよく盛り付けている。利用者は食後に食器拭き等 することもある。ホワイトボードにその日のメニュー を職員が書いており、台所のカウンターに立ててあっ た。職員が見て利用者に伝え、話題にすることもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) している。 (外部評価) 車いすを使用する方が多くあり、昼食前には、だいたい11時くらいまでにおむつ交換やトイレをすませてテーブル席に着けるよう支援している。排泄記録を付けている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 介助が必要な利用者ばかりなので、決めないと出来ない。 (外部評価) 事業所の浴室は一般家庭のような浴槽であり、車いすを使用する利用者が多いこともあって併設デイサービスのリフト浴を使用して入浴を支援している。現在は、利用者個々に声をかけて、一日おきに支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) してあげたいが出来ない。 一人一人のその日の希望での外出は対応しきれない。	
			(外部評価) 春にはお花見に行ったり、三間町の名所散策等をした。利用者の重度化や職員不足の面から外出する機会は少なくなっている。現在、利用者からは外出の希望はあまりないようだ。さらに、外に出かけることで利用者が気分転換したり、意欲や自信につながるよう取り組みをすすめてはどうだろうか。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を使う機会はあまりなく、自分で管理できる人は所持しているが、ほとんど持っていない。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) している。	
			(外部評価) シルバー人材派遣から掃除を担当する人が来てくれている。居間の掃出し窓からはテラスに出ることができ、田畑を見渡すことができる。各所にクリスマスの飾り付けをしており、玄関にはウェルカムボードに来訪者へのメッセージを書いていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) している。 独りになる 居室 気の合う者同士 居室、和室、ソファなど	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) している。	
			(外部評価) 枕元にご自分がよく使用する日用品や写真を置いている方は、シーツ交換時、職員は利用者ご本人と一緒に作業を行うようにしており、枕元はご自分で元のようにセットされる。収納ボックスを置いている位置も変えないようにしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) している。	